

奈良県

幼保小接続ガイドライン

就学前教育における学びと義務教育における学びの
円滑な接続に向けて



令和5年2月
奈良県教育委員会

はじめに

令和3年3月に策定された「第2期奈良県教育振興大綱」では、奈良県教育が目指す方向性として、「一人ひとりの『学ぶ力』『生きる力』をはぐくむ本人のための教育」が示され、就学前から学齢期といった、各ライフステージにおける教育を、「奈良県教育が目指す方向性」のもと、連続したものとして位置付け、切れ目ない接続を図ることとしています。

平成29年3月に「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「保育所保育指針」及び「小学校学習指導要領」が同時に公示され、子どもたちにこれからの時代に求められる資質・能力が育まれるよう、学校段階等間の円滑な接続を図ることが明示されました。これまで以上に幼稚園、認定こども園、保育所等と小学校との連携強化や、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続が求められています。

県並びに県教育委員会では平成31年2月に、県内の全ての子どもたちが、在籍する施設に関わらず、質の高い教育・保育が受けられるよう、共通する指針として奈良県版就学前教育プログラム「はばたくなら」を作成し、県内の幼児教育施設等に配布することとしました。あわせて、県内の就学前教育施設で「はばたくなら」を活用した取組が進むよう、毎年、各就学前教育施設で取り組まれた「はばたくなら」を活用した好事例をとりまとめ、実践事例集を作成し配布しています。また、令和4年3月に、保育者や保護者、また、地域で就学前の子どもに関わる全ての人が、共通の意識をもって子どもを育てていくための、視点や環境づくりに関するガイドラインである「奈良っ子はぐくみ基本方針」が県で策定されました。「奈良っ子はぐくみ基本方針」では、教育振興大綱が掲げる5つのテーマのうち、特に第一のテーマである「こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ」に焦点を当て、多様な子ども一人一人の可能性を最大限に拡げるよう、奈良県教育振興大綱が育成を目指す「学ぶ力」「生きる力」の土台である「自己肯定感・自尊感情」「他者への寛容なこころ」「健やかな身体」を育てていくことが目標とされています。

これらのことを受け、就学前教育で育まれた「学ぶ力」「生きる力」の土台を受け継ぎ、「奈良県教育が目指す方向性」のもと、県内の各小学校等において小学校教員等が共通の意識をもって切れ目ない接続を図ることができるよう、本ガイドラインを作成することとしました。本ガイドラインは、奈良県版就学前教育プログラム「はばたくなら」を活用した就学前教育と小学校教育を円滑に接続するための基本的な考え方をまとめた「幼保小接続ガイドライン」と幼保小の接続期における小学校一年生のカリキュラム作成の考え方やカリキュラム編成例をまとめた「スタートカリキュラム」で構成し、小学校教員等が奈良県の就学前教育での取組を理解し、円滑な接続を図ることができるようになっています。

最後になりましたが、本ガイドラインが、幼児期の教育から小学校教育へ、子どもたちの健やかな育ちや学びをつなげ、幼稚園、認定こども園、保育所等と小学校の更なる連携が充実し、深まるための一助となることを心から願っております。

目 次

奈良県における幼保小接続について

1. 幼児期の教育と小学校教育との接続について
2. 本県における就学前教育の取組
3. 幼児期と児童期の円滑な接続
4. 幼児期の学びから児童期の学びへ
5. 接続期において大切なこと
6. 幼保小接続を推進するための体制づくり

奈良県版「スタートカリキュラム」について

1. 「スタートカリキュラム」をデザインする基本的な考え方
2. 「スタートカリキュラム」をデザインする手順
3. 「スタートカリキュラム」の作成

奈良県における幼保小接続について

1. 幼児期の教育と小学校教育との接続について

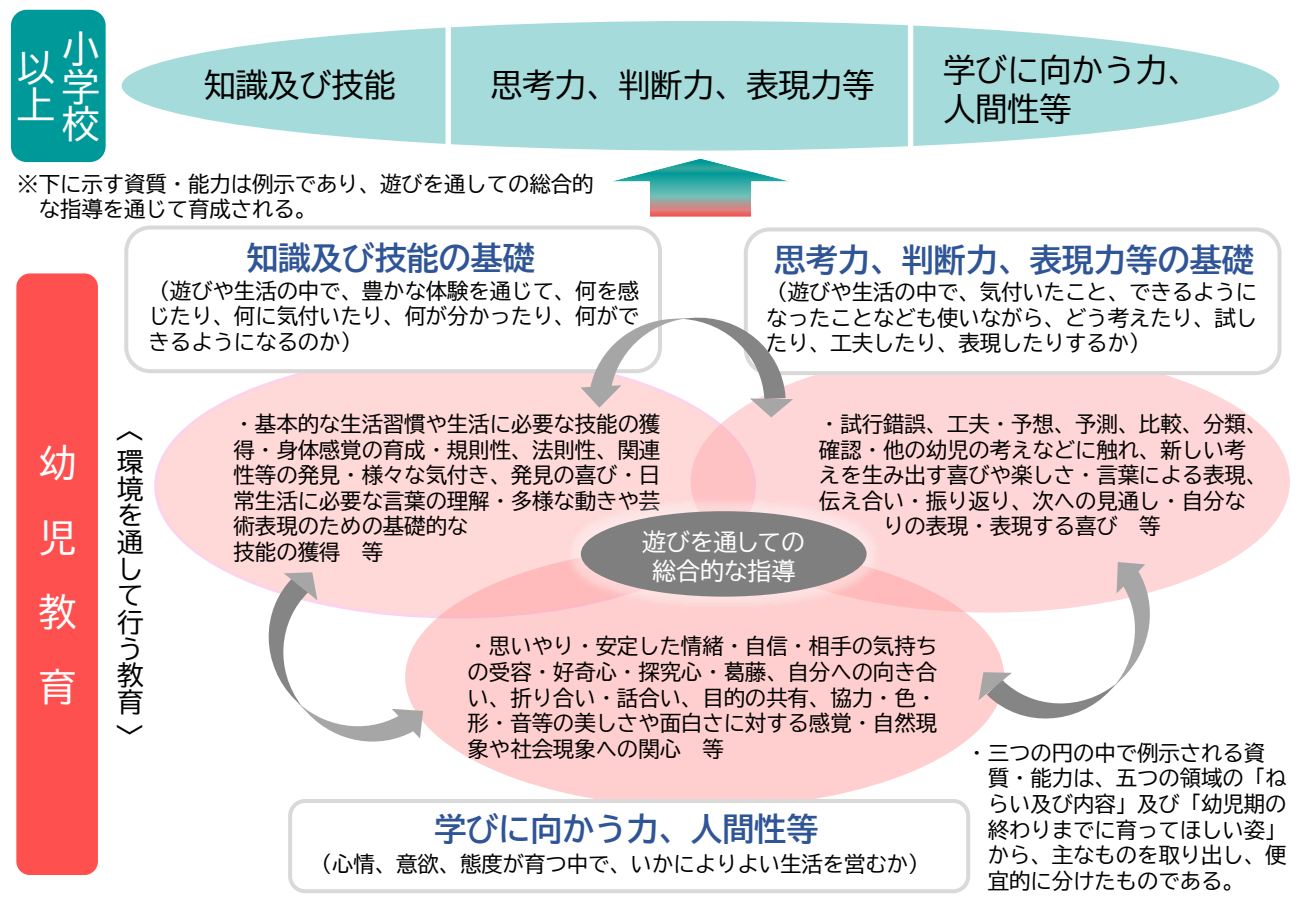
「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び「保育所保育指針」（平成29年3月告示。以下「幼稚園教育要領等」という。）において、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で構成される資質・能力を一体的に育むように努めることが示されました。

また、小学校学習指導要領（平成29年3月告示）において、「生きる力」を育むため、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されました。

今回の幼稚園教育要領等及び小学校学習指導要領の改訂の基本方針の一つとして、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続が示されており、教育全体を通して三つの資質・能力を育むこととされています。（図1）小学校においては、入学してきた児童に対して、幼児期の教育で身に付けてきたことを生かしながら教科等の学びにつなぎ、子どもたちの資質・能力を育むことが重要です。

（図1）

幼児教育において育みたい資質・能力の整理



2. 本県における就学前教育の取組

奈良県版就学前教育プログラム「はばたくなら」について

幼稚園教育要領には、「一般に、幼児期は自分の生活を離れて知識や技能を一方向的に教えられて身に付けていく時期ではなく、生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通して、この時期にふさわしい生活を営むために必要なことが培われる時期であることが知られている。」と示されています。この時期に何を経験し、どのような内容に取り組むかは、発達の段階やこれまでに経験してきたこと、地域性等を考慮し、目の前の子どもに合わせて計画されるべきものです。

就学前教育・保育を行う場は、幼稚園、認定こども園、保育所など多様化しています。その教育・保育の基となる要領・指針は、「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」と施設によって異なっています。また、前述の施設に在籍せず、就学前の期間を家庭で過ごす子どももいます。

就学前の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。そこで、県内の全ての子どもたちが、在籍する施設等に関わらず、質の高い教育・保育が受けられるよう、共通する指針として、平成29年度に作成された「奈良県版就学前教育プログラム」を基に子どもの発達の段階やそれに応じた関わり方等をまとめ、「はばたくなら」が作成されました。

「はばたくなら」では、幼児期の子どもたちに「自尊感情」「規範意識」「学習意欲」の3つの視点で継続して取組ができるようにプログラムが作成されており、乳幼児期からの発達の見通しとあわせて、子ども一人一人が自分のよさを認め、友達と関わりながら主体的に学習に取り組むことができる幼稚園教員・保育士等（以下、「保育者」という。）の援助の方法等が示されています。（図2）

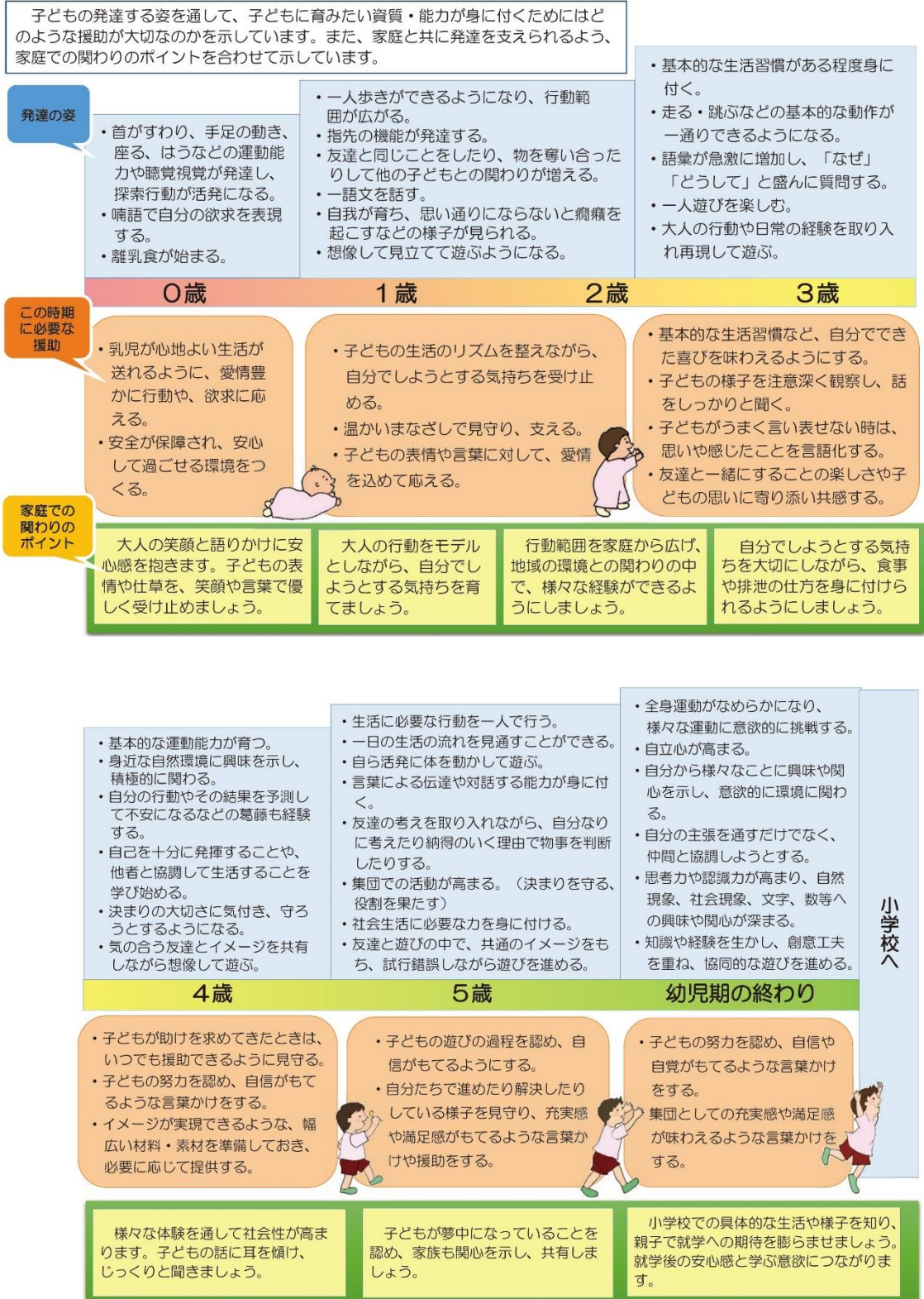


（図2）

1 「自尊感情」を育む援助	2 「規範意識」を育む援助	3 「学習意欲」を育む援助
<p>(1) 子ども自らが考え選択したことを認め、試したり行動したりする姿を支える</p> <p>(2) 子どもの発達段階を見極め、次の段階に進めそうときは、少しがんばれば乗り越えられそうな課題を提示する</p> <p>(3) 子どもが自分の力でがんばったこと、その結果成し遂げたことを認識できるようにする</p>	<p>(1) 保育者自らが、道徳的な行動モデルとなる</p> <p>(2) 道徳的な事象について、簡単な結果とその原因を結びつけて状況を説明する</p> <p>(3) 日常にある道徳的な行動を取り上げ、子ども自身が意識できるようにする</p>	<p>(1) 「できた」という結果ではなく、努力した過程に着目する</p> <p>(2) 活動の見通しをもたせ、やるべきことややりたいことを自分なりに考え、計画できるようにする</p> <p>(3) 子どもが選択や決定ができる機会を意図的につくり、その選択や決定に保育者が興味を示す</p>
<p>自尊感情は「自己の能力への自信」、つまり「やればできる」という自信です。子どもが新しいことに挑戦するときや問題解決に向かおうとするときが最も重要なタイミングです。そのときに必要となるのが大人の働きかけです。</p>	<p>基本的な道徳性の発達においては、原因と結果を認識させることが極めて重要です。例えば、「もし本のページを破り取ったら（＝原因）、クラスの誰も本を読めなくなる（＝結果）」という流れです。また、幼児期には、行動の裏にある「意図」に気付けるかどうかも重要です。</p>	<p>興味あることや自分の役に立つことは、自ら学ぶ意欲につながります。意欲的になるにつれて、子どもは自ら選択や決定を行い、思いを強め、目的をもって計画を立てるようになります。そのような活動を支える姿勢が大切です。</p>

また、「自尊心」「規範意識」「学習意欲」の向上のための就学前教育の取組を0～5歳という発達の段階に応じて考える必要性から、平成29年3月に告示された幼稚園教育要領等を踏まえて、子どもの発達とそれに応じた保育の援助及び各年齢ごとの教育内容が示されています。（図3）

（図3）



3. 幼児期と児童期の円滑な接続

義務教育段階前の5歳児になると、それまでの経験を生かしながら、課題を発見し、新しい方法を考えたり試したりして願いを実現しようとしていきます。そして、義務教育初年度となる小学校1年生は、自分の好きなことや得意なことが分かってきて、それ以降の学びや生活へと発展していく力を身に付ける時期になります。この5歳児から小学校1年生の2年間を生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な「接続期」とし、子どもに関わる大人が立場の違いを超えてこの時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指すことが大切です。

そのためには、幼稚園教育要領等に示される「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（図4 詳細はP38、39参照）を手掛かりに子どもたちの育ちを共有していくことが必要になります。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、三つの資質・能力（知識及び技能の基礎、思考力、判断力、表現力等の基礎、学びに向かう力、人間性等）が保育内容の5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）において、幼児期の終わりにどのような具体的な姿として表れるかを示したものです。

幼児期と児童期の円滑な接続に向けて、幼保小間での交流行事や、小学校でのスタートカリキュラムの実施などの取組が進みつつありますが、形式的な連携にとどまっているといった課題も見受けられます。地域の実態や子どもたち一人一人の育ちを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに共有し、双方の教育の充実を図りながら、教育内容をつなげる実践が重要となります。

（図4）

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿



4. 幼児期の学びから児童期の学びへ

幼児期は、学ぶということを意識してはいるわけではありませんが、楽しいことや好きなことに集中することを通じて、遊びの中で様々なことを学んでいる「学びの芽生え」の時期です。しかし、幼児期の終わりには、児童期以降の自覚的に学ぶ姿に近づいていきます。幼児期の教育は児童期の教育の先取りではなく、基礎を培うものです。幼児期で育まれた「学びの芽生え」が、児童期において、各教科等の授業によって計画的に学習を進める「自覚的な学び」へとつなげていくことが重要です。

(図5)

幼児期

学びの芽生え

- ・楽しいことや好きなことに集中することを通して、様々なことを学んでいく。
- ・遊びを中心として、頭も心も体も動かして様々な対象と直接関わりながら、総合的に学んでいく。
- ・日常生活の中で、様々な言葉や非言語によるコミュニケーションによって他者と関わり合う。

幼児期の教育

経験カリキュラム

- ・活動の中で、5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）を総合的に学んでいく教育課程
- ・子どもの生活リズムに合わせた1日の流れ
- ・身の回りの「人・もの・こと」が教材
- ・総合的に学んでいくために工夫された環境の構成

など

児童期

自覚的な学び

- ・学ぶことについての意義があり、集中する時間とそうでない時間（休憩の時間等）の区別が付き、自分の課題の解決に向けて、計画的に学んでいく。
- ・各教科等の学習内容について授業を通して学んでいく。
- ・主に授業の中で、話したり聞いたり、読んだり書いたり、一緒に活動したりすることで他者と関わり合う。

児童期の教育

教科カリキュラム

- ・各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程
- ・時間割に沿った1日の流れ
- ・教科書が主たる教材
- ・系統的に学ぶために工夫された学習環境

など

幼児期の教育は、5領域の内容を遊びや生活を通して総合的に学んでいく教育課程等に基づいて実施されています。一方、児童期の教育は、各教科等の学習内容を系統的に配列した教育課程に基づいて実施されています。

(図5)

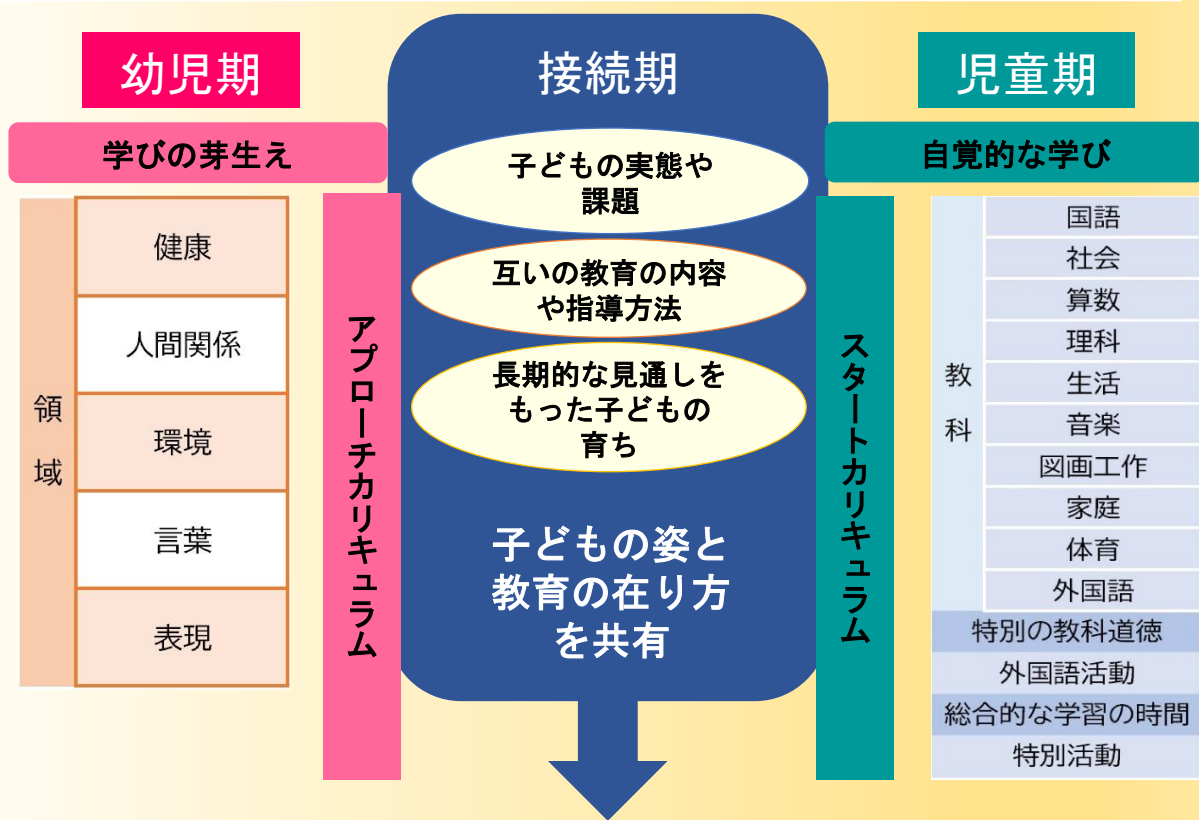
小学校入学当初は、学びの芽生えから自覚的な学びへと連続させることが大切です。そのために、具体的な活動や体験を通して、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目標とする生活科を核として楽しいことや好きなことに没頭する中で生じた驚きや発見を大切に、学ぶ意欲が高まるような活動を構成することが有効になります。

また、「はばたくなら」で育まれた「自尊感情」「規範意識」「学習意欲」をさらに児童期の教育で伸ばせるよう、特に入学当初は「はばたくなら」の中で大切にされている保育者の視点での援助の在り方を参考に、一人一人の児童に応じた支援の在り方について1年生の担任だけでなく全教員で共有し、指導に生かすことが重要です。

5. 接続期において大切なこと

接続期において大切なことは、子どもの成長を止めないこと、子どもが戸惑うことのないようにすることです。そのためには、子どもの実態や課題について知ること、幼児期と児童期の互いの教育の内容や指導方法を知ること、長期的な見通しをもった子どもの育ちについて知ることが必要です。

接続期の子ども姿と教育の在り方を共有することで、育成を目指す資質・能力につなげていくことが大切であり、円滑な接続のためには、幼児期におけるアプローチカリキュラムや児童期におけるスタートカリキュラムを編成することが大切です。



育成を目指す資質・能力につなぐ

幼児期では

幼児期における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中に具体化される資質・能力は、やがて児童期において育成を目指す資質・能力につなげることを意識することが大切です。

児童期では

幼児期における遊びを自発的な活動として理解し、幼児期に遊びを通して既に育まれてきた資質・能力を意識し、各教科等での学習へとつなげることが大切です。

アプローチカリキュラムとは

アプローチカリキュラムとは、就学前の幼児が円滑に小学校の生活や学習へ適応できるようにするとともに、幼児期の学びが小学校の生活や学習で生かされてつながるように工夫された5歳児のカリキュラムです。

5歳児の後期（9月～10月頃）から卒園までの時期に、育ちと学びの連続性や一貫性を意識することが大切です。

スタートカリキュラムとは

スタートカリキュラムとは、小学校に入学した子どもが、幼稚園、認定こども園、保育所等の遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムです。

小学校生活は、ゼロからのスタートではありません。スタートカリキュラムに幼児期の教育の考え方を取り入れることで、子どもに安心感が生まれます。幼児期の経験を小学校の学習につなぐことで、子どもが自信をもって成長していきます。スタートカリキュラムを入り口として6年間を見通すことが、子どもの自立につながります。

安心

成長

自立

小学校学習指導要領では、「小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと」と規定されており、各学校でスタートカリキュラムを編成することが求められています。

■ 小学校学習指導要領（平成29年告示）の幼保小接続に関する記述

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

6. 幼保小接続を推進するための体制づくり

幼児教育から小学校教育へ円滑に接続させるためには、各地域において幼保小接続を推進するための体制づくりが必要となります。そのために、校内組織を立ち上げ、全校で協力体制を組みながら、スタートカリキュラムに取り組むことが大切です。

PLAN (3月末までに!)

校内組織を立ち上げて準備をする

- 意義、考え方、ねらいなどを全教職員で共通理解し、保護者へ説明する
- 幼稚園、認定こども園、保育所等への訪問や教職員との意見交換、要録等から子どもの実態をつかみ、指導や支援、子どものよさを小学校につなぐ
- スタートカリキュラムを編成する

校内組織例

「スタートカリキュラム作成委員会」

校長、教頭、教務主任、現1年担任、新1年担任、生活科主任、養護教諭、特別支援教育コーディネーターなど

DO

全校で協力体制を組みスタートカリキュラムに取り組む

- 学級担任だけでなく、全教職員で協力体制を組み、見守り、育てる
- 発達の特性を生かし、具体的な活動や体験を取り入れた授業を工夫する
- 環境構成を工夫し、安心感がもてるようにする

協力体制の例

入学当初は、複数の教職員が1年生の教室に入ることができるよう、学校全体で時間割を調整する。そうすることで、他学年の担任も間接的にスタートカリキュラムに協力することができる

保護者に伝える

保護者の安心が子どもの安心につながります

保護者の意識の変容につながります

子どもを知る

～園に行ってみる～

園では、子どもの主体性を大切にしています。生活リズム、環境の構成や教師の関わり方など、4月からの授業につながるポイントをたくさん知ることができま

学校全体で6年間の土台を育てる

保護者に伝える

～学級便り・懇談会など～
子どもが興味・関心をもって学習に取り組む様子を保護者にエピソードで語ります。活動を通して、主体的に学ぶ姿を保護者にも理解してもらうことは、保護者の意識の変容につながります

ACTION

時期を捉えて、反省・検証・改善をしよう

- 長期休業後の学校生活への適応に向けて、夏休み明けの子どもへの指導に改善点を生かす
- スタートカリキュラムの改善のために、週案などの資料をデータベース化し共有する
- 1月から3月にかけて、次年度のスタートカリキュラムの改善を図る

改善の例

- 連休明けに不安になった子どもが多かったので、夏休み明けに心をほぐす活動を取り入れる
- 写真入りで手順を示すと落ち着いて生活できたので、子どもの目線で学習環境を見直す
- 次年度のスタートカリキュラムの編成に向けて、幼稚園、認定こども園、保育所等の教職員との合同研修を計画する

CHECK

子どもの姿・指導の在り方を語り合う

- 取組がねらいに沿っているか、子どもの姿で日々評価する
- 学年会などで、子どもの成長する姿や指導方法について情報交換する
- スタートカリキュラム作成委員会や職員会議などで実施状況を共有する

評価方法の例

- 子どもの姿を週案などに記録する
- 子どもの書いたものや作品を使って評価する
- 様々な立場から子どもの様子を捉え評価する

園の先生に参観してもらおう

参観後、子どもの姿や指導の在り方について、気が付いたことを話し合います
園での様子と比較することで、子どもの成長を実感することができます

また、域内の各校・園・所で幼保小連携担当者を決め、定期的に連絡会を開催することが考えられます。

<連絡会の役割例>

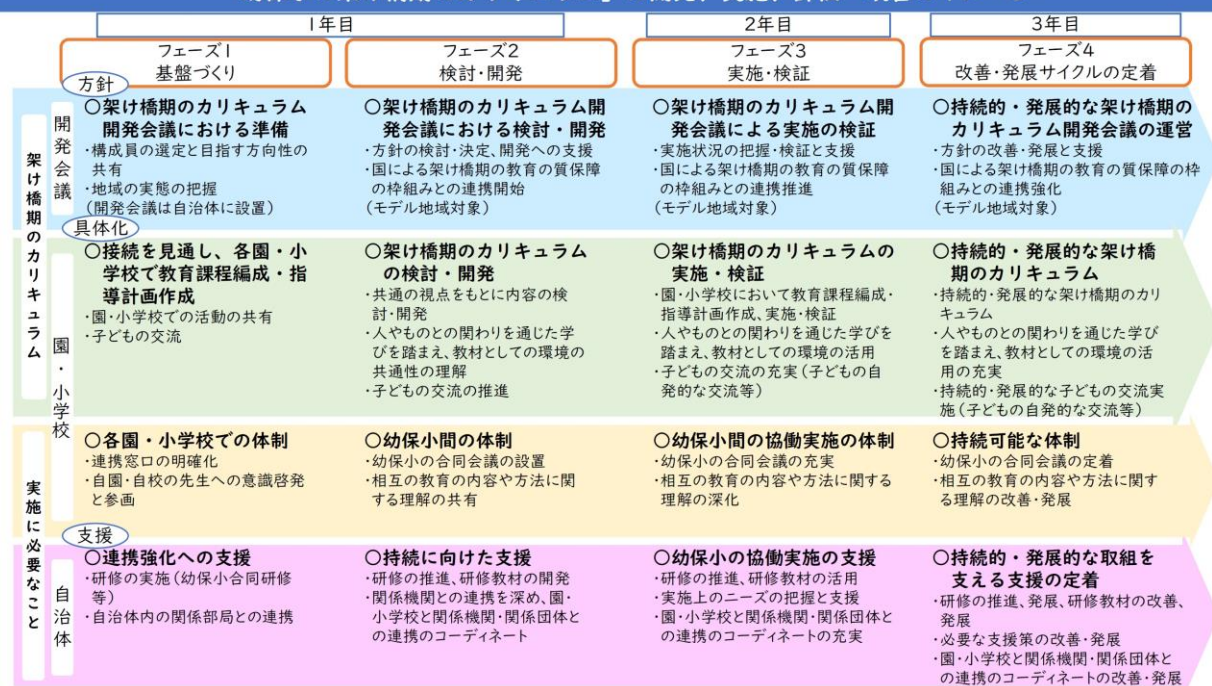
- ・ 小学校教員による保育参観、幼稚園、認定こども園、保育所等の保育者による授業参観の企画・運営
- ・ 校・園・所の子どもたち同士の交流活動の計画・実施
- ・ アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの共有・見直し

など

幼保小の架け橋プログラム

文部科学省では、子どもに関わる大人が立場を超えて連携し、架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指す「幼保小架け橋プログラム」を作成しています。また、プログラムの実施に向けての手引きを策定しており、幼保小接続を各地域で推進するための体制づくりの参考にできます。

「幼保小の架け橋期のカリキュラム」の開発、実施、評価・改善のイメージ



https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/I258019_00002.htm



1. 「スタートカリキュラム」をデザインする基本的な考え方

スタートカリキュラムをデザインする際の基本的な考え方としては、次の4つが考えられます。こうした考え方について学校全体で共通理解を図った上で、スタートカリキュラムをデザインすることが求められます。

安心して自ら学びを
広げていけるような
学習環境を整えよう

児童が安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるよう学習環境を整えることが重要です。児童の実態を踏まえること、人間関係が豊かに広がること、学習のきっかけが生まれることなどの視点で、児童を取り巻く学習環境を見直す必要があります。

一人一人の児童の
成長の姿からデザ
インしよう

入学時の児童の発達や学びには個人差があり、それぞれの経験や幼児期の教育を考慮したきめ細かい指導が求められます。そのため、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえるなどして、幼児の発達や学びの様子を理解した上で、カリキュラムをデザインすることが重要です。

生活科を中心に合
科的・関連的な指
導の充実を図ろう

自分との関わりを通して総合的に学ぶという、この時期の児童の発達の特性を踏まえ、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の充実を図ることが重要です。このような指導により、児童の意識の流れに配慮したつながりのある学習活動を進めていくことが可能となります。

児童の発達の特性
を踏まえて、時間
割や学習活動を工
夫しよう

入学当初の児童の発達の特性やこの時期の学びの特徴を踏まえて、10分から15分程度の短い時間を活用して時間割を構成したり、具体的な活動の伴う学習活動を位置付けたりするような工夫が必要です。また、児童の意欲の高まりを大切にして、自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていけるように活動時間を設定することなども考えられます。

2. 「スタートカリキュラム」をデザインする手順

幼児期における遊びを通しての総合的な指導を通じて育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるようにするためには、小学校入学当初の学校における教育活動全体を対象として、カリキュラムをデザインしていくことが欠かせません。基本的な考え方を踏まえ、スタートカリキュラムをデザインする際には、次のような手順で進めることが考えられます。

(1) 幼児期の発達や学びを理解する

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえる。
- ・園・所への訪問や保育者との意見交換等により、幼児の発達や学びの様子、指導の在り方等を把握する。

(2) 期待する児童の姿を共有する

- ・スタートカリキュラムを通して一人一人が確かに成長することを目指し、期待する児童の姿を明らかにする。
- ・実施期間を検討する。

(3) スタートカリキュラムをデザインする

①単元の構成と配列

- ・期待する児童の姿に適合した単元を構成し配列する。
- ・幼児期における遊びを通じた総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるよう、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫を行う。

ポイント

全ての単元を配列し、俯瞰^{ふかん}することができる**単元配列表**を作成する。

②週の計画と時間配分

- ・単元計画に基づいた学習活動を週の計画として時間配分する。
- ・児童の発達の特性や学びの特徴を踏まえ、短い時間で時間割を構成したり、ゆったりとした活動時間を位置付けたりするなど、弾力的な時間割の設定の工夫を行う。

ポイント

実践に向けて具体化するために**週案**を作成する。

3. 「スタートカリキュラム」の作成

①単元の構成と配列

スタートカリキュラムをデザインする際には、幼児期の発達や遊びを通した総合的な学びが小学校の学習や生活において発揮できるように、また、児童の思いや願いをきっかけとして始まる学びが自然に教科等の学習につながっていくように、単元の構成と配列を行うことが大切です。主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出そうとする児童の姿を実現するための方法として、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫が求められています。

合科的・関連的な指導の工夫を行う際には、学習指導要領で各教科等の目標や内容を確認し、より効果的に展開できるように実施時期や指導方法を調整するなどの工夫が求められます。そのために、生活科と各教科等との単元の関連を明示した単元配列表を作成することが考えられます。

➡ (1) 単元配列表の作成 へ

②週の計画と時間配分

幼稚園、認定こども園、保育所等の幼児教育では、遊びを通して様々なことを総合的に学んでいます。遊びを準備する過程の中で、数を数えたり、試行錯誤して自然の法則に気付いたり、自分の思いを相手に伝えたり、感じたことや見たことを絵で表現したりと、「学びの芽生え」が散りばめられています。これらは、小学校教育の教科学習につながっていくものです。

しかし、小学校では時程が定められており、各教科等に分割して学習を進めていくカリキュラムとなっています。また、チャイムに合わせて行動を変えていくことや、机や椅子を使い、学ぶ場所が決められていることなど、入学を境に学び方が大きく変化します。この学び方に児童の中には大きな戸惑いを感じ、45分間の中で一つの学習に集中できなかつたり、自分のやりたいことを優先してしまい集団で学習できなかつたりすることが起こることもあります。

そこで、小学校入学当初は、生活科を核として、児童の幼児期の体験を重視した総合的に学ぶカリキュラムを作り、合科的・関連的な指導の工夫を行い、教科を自然な形で学ぶようにすることが大切です。その際、10分から15分程度の短い時間で時間割を構成したり、児童が自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていけるように活動時間を設定したりする弾力的な時間割の設定を行うことが考えられます。スタートカリキュラムを実践していくためには、これらのことを反映させた週案を作成することが必要になります。

➡ (2) 週案の作成 へ

(1) 単元配列表の作成

- 国語科・音楽科・特別活動等を合科的に指導
- 生活科の指導又は生活科と他教科等を合科的に指導
- 生活科と他教科等を関連的に指導

< 単元配列表例 (1 学期) >

	4 月	5 月	6 月	7 月	
国語	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">おはなしよんで</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">みんなにつたえよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">かいてみよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">めいしをつくろう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">あいうえお</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ことばあつめ</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">いろんなよみかた</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">こえにだしてよもう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ぶんをつくろう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ことばあそび</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">おはなしをよもう</div>	
算数	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">10までのかず</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">あわせていくつ</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">のこりはいくつ</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">どちらがながい</div>	
生活	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">がっこうだいすき</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">はるのがっこう</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">おおきくそだて</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">なつのしぜん</div>	
音楽	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">うたっておどって</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">リズムにあわせて</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">はるのうた</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">はくをかんじて</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">なつのうた</div>	
図画工作	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">こんなことはっけん</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">めいしをつくろう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">はるをみつけた</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ちよきちよきかざり</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">すきなものにあい</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ねんどであそぼう</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">みんなみてね</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">うつつであそぼう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">かみをおって</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">すなやつちであそぼう</div>	
体育	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ゆうぐあそび</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">そとあそび</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">からだほぐしあそび</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">かけっこあそび</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">うごきつくりあそび</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">りずみあそび</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ひょうげんあそび</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">みずあそび</div>
道徳	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">あいさつ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">たのしいがっこう</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">たいせつないのち</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">しんせつにしよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ものをたいせつに</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">がんばるこころ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">かんしゃのきもち</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">じぶんのしごと</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ゆうきをだして</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">しょくぶつをそだてて</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">すがすがしいこころで</div>
特別活動	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">げんきにおへんじ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">じぶんでできるよ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">たのしいきゅうしよく</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">としよしつへいこう</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">かかりのしごと</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">こうつうあんぜん</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ひなんくんれん</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">はをたいせつにしよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">あめのひのすごしかた</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">すききらいをなくそう</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">1がきをふりかえろう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">なつやすみのせいかつ</div>

(2) 週案の作成

小学校入学時における教員の思い

小学校入学時の児童に対して、小学校の教員は、児童の思いに寄り添い無理なく指導しようとする反面、「はじめが肝心!」「生活習慣を身に付けさせることが大切!」「学校のルールをきっちり教えておかないと・・・」といった思いが先行してしまい、「〇〇の仕方」や「〇〇の使い方」などの技能を教える時間を優先したカリキュラムを編成することが多くなります。



そのため、下のような第1週の時間割を計画することが多くなります。

	第1日	第2日	第3日	第4日	第5日
	4/〇(月)	4/〇(火)	4/〇(水)	4/〇(木)	4/〇(金)
1		学活 ・挨拶の仕方 ・返事の仕方 ・荷物の片付け方	国語 ・鉛筆の持ち方 ・書写プリント	音楽 ・並び方 ・貨物列車	算数 ・同じ仲間 ・数え方
2	入学式	学活 ・並び方 ・トイレの使い方 ・靴箱の使い方	学活 ・歌を歌う ・個人写真	体育 ・遊具の使い方	健康診断
3	学活	学活 ・帰りの用意 ・下校時の並び方 ・下校の仕方	生活 ・雑巾のかけ方 ・帰りの用意	体育 ・50m走の練習 ・体操服の片付け方	国語 ・自分の名前
4				生活 ・給食の約束 ・給食の準備	学活 ・学校のルール ・給食の準備

小学校入学時は、児童が安心して学校生活を送り、**主体的に自己を発揮**できるようにすることが大切です。そのために、時間割の枠を越え、ゆったりとした時間の中で合科的・関連的に指導できるようにします。

幼児期に親しんできた活動を取り入れ、児童が一日の始まりを安心して
楽しい気持ちで迎えられるようにします。

1時間目を15分ずつに分け、3つの教科等の内容で構成します。

元気におへんじ

朝の挨拶や返事をしたり、見つけたこととお話したりします。(学活1/3)

歌っておどって

児童に馴染みのある歌をリズムに乗っておどりながら歌います。(音楽1/3)

おはなし読んで

教員が絵本を読み聞かせた後、みんなで感想を伝えます。(国語1/3)


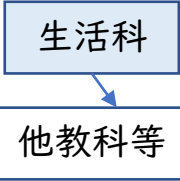
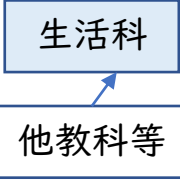
第1週の週案例

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目	
1校時	入学式	学級活動・音楽・国語 ○なかよくあそぼう ・挨拶リレーをし、元気よく朝の挨拶をする ・曲に合わせて歌ったり動いたりして心と体を解す ・読み聞かせを聞き、お話クイズをする	音楽・算数・国語 ○なかよくあそぼう ・既知の曲等に合せて歌ったり、動いたりする ・数字の曲から、1から5までの数の覚え方を知る ・読み聞かせを聞き、お話クイズをする	音楽・算数・国語 ○なかよくあそぼう ・貨物列車の曲に合わせて動きながら友達と関わる ・貨物列車で何人つながったか数唱する ・読み聞かせを聞き、絵本の内容について話し合う	音楽・算数・国語 ○なかよくあそぼう ・貨物列車の曲に合わせて動きながら友達と関わる ・貨物列車で何人つながったか数唱する ・読み聞かせを聞き、絵本の内容について話し合う	
2校時		生活 ○がっこうだいすき ・1年生になってやってみたいことを考えて発表し合う	生活・算数・学級活動 ○がっこうだいすき ・トイレの使い方や靴箱の使い方など教室の外で自分のできることを学ぶ(60分)	生活 ○がっこうだいすき ・給食室に行き、給食が作られる様子を見学する	図工・国語・生活 ○がっこうだいすき ・給食室で見付けたもの思い出し、絵を描く ・自分が発見したことをみんなに伝える	
3校時		学級活動 ○がっこうはたのしいところ ・入学式の後に友達や先生と遊びながら関わることを通して、これからの学校生活への安心感をもつ	生活・算数・学級活動 ○じぶんでできるよ ・荷物の片付け方や身支度の仕方など教室で自分のできることを学ぶ	生活・学級活動 ○じぶんでできるよ ・荷物の片付け方や身支度の仕方など教室で自分のできることを学ぶ(30分)		
					学級活動 ○たのしいきゅうしょく ・栄養教諭の話聞いて、給食で気を付けることをみんな考える	学級活動 ○きゅうしょくのときは ・前日の給食の時間を振り返り、給食の時間に気を付けることを考える
4校時						

生活科の単元「がっこうだいすき」を中心としたカリキュラムを編成します。他教科等は、この単元に関連付いた内容を設定し、合科的・関連的に指導できるよう工夫することで、幼児期の学びが各教科等の学習に円滑に接続されるようにします。

- 国語科・音楽科・特別活動等を合科的に指導
- 生活科の指導又は生活科と他教科等を合科的に指導
- 生活科と他教科等を関連的に指導

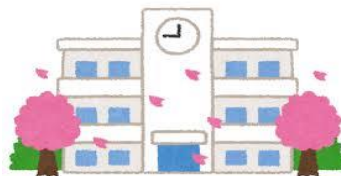
合科的・関連的な指導

	捉え方	タイプ（例）	
合科的な指導	各教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで、単元又は1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開するもの	【合科】 生活科を中心とした単元の学習活動において、複数の教科の目標や内容を組み合わせて学習活動を展開することで、指導の効果を高める	
		【関連A】 生活科の学習成果を他教科等の学習に生かす	
関連的な指導	教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導するもの	【関連B】 他教科等の学習成果を生生活科の学習に生かす	

合科的・関連的な指導の具体例

【合科】	生活科の学校探検で気付いたことなどを言葉で表現したり、友達と伝え合ったりする学習活動において、国語科の資質・能力「伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること」について指導することで、より効果的にねらいの実現を図る
【関連A】	生活科で春の自然を観察したり、自然のもので遊んだりする体験が、音楽科で春の歌の曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くことに生かされるように関連を意識して指導する
【関連B】	算数科で育成する、ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べることや、個数の順番を正しく数えたり表したりする知識及び技能が、生活科の学校探検で見つけたものを数える際に生かされるように関連を意識して指導する

第1週の週案例



週案作成のポイント

第1週目に大切にしたいことは、入学してきた子どもたちが安心感をもち、生き生きと自己発揮できるようにすることです。

3月までは、各園所等でリーダーとしての役割を果たしてきた子どもたち。入学してからもその力を発揮するためには、安心して学校生活を過ごせるようにすることです。そのためにも、朝の遊びや授業中に先生や友達と関わり合えるような活動を通して、担任の先生や友達との関係を築いていくことが大切です。また、授業だけでなく学校生活の様々な機会においてこれまでの園所や家庭での経験を振り返らせることで「小学校でも、これまでの自分の経験を生かせる」と自己発揮を促すことが大切です。

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
1校時	入学式	学級活動・音楽・国語 ○なかよくあそぼう ・挨拶リレーをし、元気よく朝の挨拶をする ・曲に合わせて歌ったり動いたりして心と体を解す ・読み聞かせを聞き、お話クイズをする 活動例1	音楽・算数・国語 ○なかよくあそぼう ・既知の曲等に合わせて歌ったり、動いたりする ・数字の曲から、1から5までの数の唱え方を知る ・読み聞かせを聞き、お話クイズをする	音楽・算数・国語 ○なかよくあそぼう ・貨物列車の曲に合わせて動きながら友達と関わる ・貨物列車で何人つながったか数唱する ・読み聞かせを聞き、絵本の内容について話し合う 活動例4	音楽・算数・国語 ○なかよくあそぼう ・貨物列車の曲に合わせて動きながら友達と関わる ・貨物列車で何人つながったか数唱する ・読み聞かせを聞き、絵本の内容について話し合う
		生活 ○がっこうだいすき ・1年生になってやってみたことを考えて発表し合う	生活・算数・学級活動 ○がっこうだいすき ・トイレの使い方や靴箱の使い方など教室の外で自分でできることを学ぶ(60分) 活動例3	生活 ○がっこうだいすき ・給食室に行き、給食が作られる様子を見学する 活動例5	図工・国語・生活 ○がっこうだいすき ・給食室で見付けたものを思い出し、絵を描く ・自分が発見したことをみんなに伝える 活動例6
2校時	学級活動 ○がっこうはたのしいところ ・入学式の後に友達や先生と遊びながら関わることを通して、これからの学校生活への安心感をもち	生活・算数・学級活動 ○じぶんでできるよ ・荷物の片付け方や身支度の仕方など教室で自分でできることを学ぶ 活動例2	生活・学級活動 ○じぶんでできるよ ・荷物の片付け方や身支度の仕方など教室で自分でできることを学ぶ(30分)		
3校時				学級活動 ○たのしいきゅうしょく ・栄養教諭の話聞いて、給食で気を付けることをみんな考える	学級活動 ○きゅうしょくのときは ・前日の給食の時間を振り返り、給食の時間に気を付けることを考える
4校時					

指導のポイント

小学校の楽しさを伝える

- 授業や生活の中で、遊びの要素を取り入れながら活動し、緊張感を和らげながら楽しめるようにする。
- 授業や遊び、生活の中で、子どもができたことを認め、自信をもたせる。

基本的な生活習慣や基本姿勢の大切さを考えさせる

- 学校での基本的な生活習慣を丁寧に伝え、確実に身に付けられるようにする。
- 元気にあいさつや返事ができるようにする。
- 自分勝手な行動を見逃さず、声をかける。

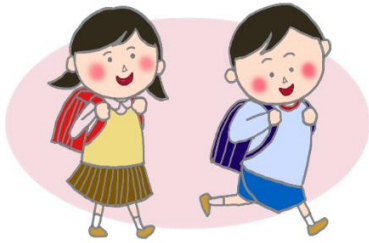
これまでの経験を生かし、自信をもって取り組ませる

- 各園所等で行っていた遊びを取り入れ、環境が変わる中でも自信をもって生活できるきっかけをつくる。
- 授業や生活の中で、各園所等で行ってきたことを思い出させたりしながら、自分ができることとして自信をもたせる。



第2週の週案例

週案作成のポイント



入学して1週間が過ぎると、安心して学校生活を送ることができる子どもも多くなってきます。自分たちの教室のある階にはどんな場所があるのか気になったり、他の階や校舎の外も探検してみたいという思いが生まれたりするなど、興味・関心は自分を中心に周囲へと広がっていきます。そういった子どもたちの思いを生かし、学校探検の行き先を少しずつ広げたり、クラスの友達と行った名刺交換を学年以外の先生とするようにしたりして、安心して行ける場所や安心して関わられる先生を増やしていくことが考えられます。

	第6日目	第7日目	第8日目	第9日目	第10日目
1 校時	音楽・算数・国語 ○なかよくあそぼう ・貨物列車の曲に合わせて動きながら友達と関わる ・貨物列車で何人つながったか数唱する ・読み聞かせを聞き、絵本の内容について話し合う	音楽・算数・国語 ○なかよくあそぼう ・セブステップなどの曲を使い、動と静を意識しながら歌い体を動かす ・教室に1から5までの数字探しをする ・読み聞かせを聞き、絵本の内容について話し合う	音楽・算数・国語 ○なかよくあそぼう ・セブステップなどの曲を使い、動と静を意識しながら歌い体を動かす ・教室に1から5までの数字探しをする ・読み聞かせを聞き、絵本の内容について話し合う	音楽・算数・国語 ○なかよくあそぼう ・貨物列車の曲に合わせて動きながら友達と関わる ・貨物列車で何人つながったか数唱する ・読み聞かせを聞き、お話クイズをする	音楽・算数・国語 ○なかよくあそぼう ・貨物列車の曲に合わせて動きながら友達と関わる ・貨物列車で何人つながったか数唱する ・読み聞かせを聞き、お話クイズをする
	生活 ○がっこうだいすき ・もう一度、やってみたいことを発表し合う	生活・算数 ○がっこうだいすき ・名刺交換をする ・名刺の数を数える 活動例8	生活 ○がっこうだいすき ・グループで決めた場所を探検に行く 活動例10	生活 ○がっこうだいすき ・グループで決めた場所を探検に行く	図工 ○がっこうだいすき ・学校探検で見つけたものを思い出し、絵を描く
3 校時	体育・算数 ○そとあそび ・遊具遊びや鬼遊びなど、自分がしたい外遊びを選んで遊ぶ 活動例7	学級活動・生活 ○がっこうだいすき ・4人程度の生活班を作り、グループ遊びをする ・グループで校庭の他に好きたい場所を考えて決める 活動例9			
	生活・学級活動 ○がっこうだいすき ・自分がした遊びや校庭で見つけたものについて発表する 活動例7		国語 ○かいてみよう ・姿勢や鉛筆の持ち方に気を付けて、平仮名を書く	算数 ○10までのかず ・「いち」から「ご」までの数詞の唱え方、数え方を学ぶ	国語 ○かいてみよう ・姿勢や鉛筆の持ち方に気を付けて、平仮名を書く
5 校時	国語・図工 ○めいしをつくろう ・名刺交換に向けて、名刺をつくる 活動例8	道徳 ○あいさつ ・気持ちのよい挨拶をすると自分も相手も気持ちよく過ごせるようになることに気づき、誰とでも明るく挨拶しようとする態度を養う	算数 ○10までのかず ・同じ数の集合を見付ける	体育 ○ゆうぐあそび ・ジャングルジム、登り棒など自分がしたい外遊びを選んで遊び、いろいろな遊びを試してみる	算数 ○10までのかず ・1～5の数字の読み方、書き方、数の構成を理解する

指導のポイント

学校での生活の仕方を教える

- 運動場・保健室・職員室・体育館・図書室など生活に必要な場所であることを確認する。
- さまざまな場所の使い方やそこのルールを丁寧に確認する。
- チャイムを合図とした時間の区切りを知らせ、休み時間は元気に体を動かして過ごす気持ちよさを体感できるようにする。

学習規律を教える

- 椅子の座り方や鉛筆の持ち方などを繰り返し丁寧に指導する。
- 「～です」「～ます」を使った発表ができるようにする。
- 運筆や音読などの学習を通して、学ぶ意識を高める。

新しい友達をつくれるようにする

- クラスで自己紹介をし、友達を知るきっかけをつくる。
- 体育や生活の時間に、集団遊びを取り入れ、クラスの友達とのつながりをつくる。
- 下校時に同じ地区の友達の顔や名前を覚えるように声をかける。



第3週の週案例

週案作成のポイント

安心感の下で自己発揮をしながら、友達と楽しく関わることができる子どもたちが増えてきます。そのことにより、教科等の学びも豊かになっていく時期です。国語や算数の学習などの短時間の帯授業により、子どもも見通しをもち、集中して取り組めるようになってきます。

一方で図工のようにじっくりと取り組みたい授業では、たっぴりと時間を設定したり、生活科の学校探検から各教科等の学習につなげ、関連的に学習したりすることも大切です。

また、安心して学校生活を過ごせるようになることから、周りのことにも目を向けられるようになり、係活動や当番活動などにも取り組めるようになります。子どもたちの興味・関心を集団での活動に向けられるような活動に取り組む時期でもあります。

	第11日目	第12日目	第13日目	第14日目	第15日目
1校時	算数・国語 ○なかよくあそぼう ・教室の中にある10までの物を探し、数の概念を養う ・読み聞かせを聞き、お話クイズをする	算数・国語 ○なかよくあそぼう ・教室の中にある10までの物を探し、数の概念を養う ・読み聞かせを聞き、お話クイズをする	算数・国語 ○なかよくあそぼう ・教室の中にある10までの物を探し、数の概念を養う ・読み聞かせを聞き、お話クイズをする	算数・国語 ○なかよくあそぼう ・教室の中にある10までの物を探し、数の概念を養う ・読み聞かせを聞き、お話クイズをする	学校行事 ○1年生を迎える会
2校時	国語・生活 ○がっこうだいすき ・学校探検で自分が発見したことをみんなに伝える 活動例!	生活 ○がっこうだいすき ・自分たちが通っている通学路に何があるか考える	生活 ○がっこうだいすき ・安全に登下校することについて考えながら、通学路を探検する	道徳 ○たのしいがっこう ・学校で世話になっている人々の存在に気づき、感謝する気持ちを具体的な言動に表す大切さについて考える	体育 ○ゆうぐあそび ・ジャングルジム、登り棒、鉄棒、雲梯などの中から自分に合った遊具を考えて遊ぶ
3校時		体育 ○ゆうぐあそび ・鉄棒の遊び方を知って、いろいろな遊びを試してみる		体育 ○ゆうぐあそび ・雲梯の遊び方を知って、いろいろな遊びを試してみる	音楽 ○リズムにあわせて ・知っている歌を探し、その音源を聴きながら、合わせて歌ったり、身振りをしたりする
4校時	算数 ○10までのかず ・6～10の数字の読み方、書き方、数の構成の理解する	国語 ○あいうえお ・姿勢や口形、発声、発音に気を付けて教科書を読む	算数 ○10までのかず ・ものの個数を絵や図で表したり、読み取ったりする	国語 ○ことばあつめ ・新たなひらがなを学習し、その平仮名で始まる言葉を見付ける	学級活動 ○としよしつへいこう ・図書館は本がたくさんあって楽しい便利なおところであることを知る
5校時	国語 ○あいうえお ・姿勢や口形、発声、発音に気を付けて教科書を読む	算数 ○10までのかず ・ものの個数を絵や図で表したり、読み取ったりする	国語 ○あいうえお ・「あいうえお」で始まる言葉を見付け、声に出して読む	算数 ○10までのかず ・具体物をつかって5～10の数の合成を学ぶ	国語 ○ほんをよもう ・読み聞かせを聞いたり、自分で本を選んで読んだりする

指導のポイント

学習規律を身に付けさせる

- 授業を受けるための正しい姿勢や、教員や友達との受け答えのよい例を積極的に認める。
- ノートや筆箱などの教材の置き方・使い方を丁寧に確認する。
- チャイムを意識して行動できるように繰り返し声かけをする。

給食指導を通して、給食に興味をもたせる

- 適切な手洗い及び身支度ができるように指導する。
- 安心して給食を食べられるように個々に配慮する。
- 箸、食器の正しい配膳や使い方を知らせ、できていることを積極的に認める。
- 食べられる量を配膳し、決められた時間内に残さず食べられるよう見通しをもたせる。
- 給食当番の仕事を責任をもって取り組むことのよさを伝える。

自分の役割を意識させ、協力関係をつくらせる

- 当番活動や班活動においては互いに協力しながら取り組むように声かけをする。
- ほうきやちりとり、ぞうきんなどのそうじ用具の使い方やそうじの仕方を丁寧に確認する。



第4週の週案例

週案作成のポイント

この時期の児童は、今から何の教科が始まるのか、今日はどこのページから始まるのかなど、学ぶということに対してより自覚的になってきます。また、次の授業はいつ始まっていつ終わり、休み時間は何分間あるなど時間割に基づいた学校生活の流れに意識が向いてくることでしょう。

そういう児童の実態を意識して声をかけるなどすると、スムーズに学校生活を送ることができるでしょう。授業の中では、めあてを意識して学んだり、自分たちで少しずつ見通しをもってより主体的に学習を進めたりできるようにしましょう。

	第16日目	第17日目	第18日目	第19日目	第20日目
1校時	算数・国語 ○なかよくあそぼう ・教具のブロックなどを使い提示されたブロックの数を素早く数唱する ・読み聞かせを聞き、お話クイズをする	算数・国語 ○なかよくあそぼう ・教具のブロックなどを使い提示されたブロックの数を素早く数唱する ・読み聞かせを聞き、お話クイズをする	算数・国語 ○なかよくあそぼう ・1から10までの2つの数字を選び、大きさ比べクイズを行う ・読み聞かせを聞き、絵本の内容について話し合う	算数・国語 ○なかよくあそぼう ・1から10までの2つの数字を選び、大きさ比べクイズを行う ・読み聞かせを聞き、絵本の内容について話し合う	算数・国語 ○なかよくあそぼう ・1から10までの2つの数字を選び、大きさ比べクイズを行う ・読み聞かせを聞き、絵本の内容について話し合う
2校時	国語・生活 ○がっこうだいすき ・通学路で自分が発見したことをみんなに伝える	生活 ○はるのがっこう ・校庭の春について発表し合う	算数 ○10までのかず ・生活科の時間に見つけた花を種類で分け、数を数えたり、比べたりする 活動例13	図工 ○はるをみつけた ・生活科の時間に春の自然を使って遊んだことを絵に描く	体育 ○からだほぐしあそび ・手軽な運動遊びを行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わう
3校時	体育 ○からだほぐしあそび ・みんなでいろいろな運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わう	生活・学級活動 ○はるのがっこう ・タブレットの使い方を確認し、校庭で春を感じるものの写真を撮る ・タブレットの使い方について考える 活動例12	生活 ○はるのがっこう ・校庭で見つけた春の自然を使って遊ぶ 活動例13	国語 ○ことばあつめ ・平仮名を選んで言葉を集め発表する	国語 ○ことばあつめ ・平仮名を選んで言葉を集め発表する
4校時	算数 ○10までのかず ・具体物を使って1～5の数の合成を学ぶ	算数 ○10までのかず ・具体物を使って1～5の数の合成を学ぶ	音楽 ○はるのうた ・生活科の時間に春の自然を使って遊んだことを思い出しながら、春の歌を歌う	国語 ○ことばあつめ ・新たな平仮名を学習し、その平仮名で始まる言葉を見付ける	道徳 ○ものをたいせつに ・自分の持ち物を大切に、身の回りを整えて、気持ちのよい生活ができることよさについて考える
5校時	国語 ○あいうえお ・「あいうえお」で始まる言葉を見付け、声に出して読む	算数 ○10までのかず ・具体物を使って1～5の数の合成を学ぶ	音楽 ○はるのうた ・生活科の時間に春の自然を使って遊んだことを思い出しながら、春の歌を歌う	算数 ○10までのかず ・具体物を使って1～5の数の合成を学ぶ	国語 ○ことばあつめ ・平仮名を選んで言葉を集め発表する

指導のポイント

楽しく宿題に取り組ませる

- 宿題を頑張ったことを認めたり、褒めたり、励ましたりしながら学習意欲を高めるとともに、自己学習に対する自信をもたせる。
- ぬり絵やイラストを活用するなど、宿題を楽しんで取り組めるような工夫をする。
- 宿題の内容や提出期限などをしっかりと伝え、自ら考え、取り組んでいけるようにする。

協動的な学習活動を経験させる

- 様々な学習活動を友達と一緒に頑張れるように、グループ学習や協同して学ぶ場を設定する。
- 学習の中での発見や課題を解決した喜びを友達と共有できるようにする。

学校生活のルールを定着させる

- 時間割にそって、次の授業内容を意識しながら、自ら進んで授業準備ができるようにする。
- 授業時間と休み時間の区切りを定着させ、チャイムを意識した行動ができるようにする。
- 視覚教材を用いて、流れを提示することで、スムーズに行動できるようにする。



第5週の週案例

週案作成のポイント

この時期の児童は、入学当初と比べて、学校での基本的な生活の流れや教室での過ごし方、学年だけでなく関わりのある先生方にも慣れ始め、落ち着いて学校生活を送れるようになってきます。また、各教科等の学習にも見通しをもって取り組むことができるようになってきます。

4月に取り組んだ合科的・関連的に指導する授業から、少しずつ通常の時間割による教科等の学習に移行していきます。これまでと同様に就学前の教育で児童が身に付けてきたことをしっかりと生かし、さらに伸ばす方向で指導することが大切です。



	第21日目	第22日目	第23日目	第24日目	第25日目
1校時	国語 ○こえにだしてよもう ・絵と言葉を結び付けて、語のまとまりや言葉の響きに気を付けながら音読する	国語 ○こえにだしてよもう ・場面や登場人物の様子を想像しながら音読する	図工 ○ちよきちよきかざり ・はさみの扱いに慣れ、紙の切り方を工夫して、思いに合った形に切り取り、教室が楽しい感じになる飾りをつくる	生活 ○おおきそだて ・育てたい植物を決め、種をまくために必要なことを話し合う 活動例14	国語 ○ぶんをつくろう ・主語と述語の関係を考えて文を作る
2校時	生活 ○はるのがっこう ・図工の時間に描いた絵を友達と見せ合い、春について感じたことを発表する	体育 ○かけっこあそび ・いろいろなくねくねコースを作って走ったり、友達の作ったコースを走ったりする		算数 ○10までのかず ・生活科の時間に育てるアサガオの種を使って、数を数えたり、比べたりする 活動例14	体育 ○かけっこあそび ・走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える
3校時	体育 ○かけっこあそび ・いろいろなくねくねコースを作って走ったり、友達の作ったコースを走ったりする	音楽 ○リズムにあわせて ・速度の変化などを感じ取りながら音源を聴いて、合わせて足踏みしたり体を動かしたりする	国語 ○いろんなよみかた ・促音の読み方、書き方について知る	生活 ○おおきそだて ・アサガオの種をまき、記録カードに記録する 活動例14	音楽 ○リズムにあわせて ・音楽に合わせて足踏みしたり体を動かしたりして、それぞれの曲に合う動きを考える
4校時	算数 ○10までのかず ・1～10の数の大小、系列を理解する	国語 ○こえにだしてよもう ・動作化したり、みんなで音読したりする	算数 ○10までのかず ・1～10の数の大小、系列を理解する ・空集合としての「0」の意味を知る	道徳 ○たいせつないのち ・生活科の種まき体験を基に自然に親しみ、動植物に優しく接することの大切さについて考える 活動例14	国語 ○ぶんをつくろう ・写真や絵を基にした文を作り、発表する
5校時	国語 ○こえにだしてよもう ・絵と言葉を結び付けて、語のまとまりや言葉の響きに気を付けながら音読する	算数 ○10までのかず ・10までの数の系列を多面的にとらえる	国語 ○いろんなよみかた ・濁音、半濁音の書き順を学び、濁点、半濁点の位置に気を付けて書く	国語 ○いろんなよみかた ・促音や濁音、半濁音のある言葉を使って簡単な文を書く	学級活動 ○かかりのしごと ・自分たちの生活に必要な役割を考え、担当を決める



目標

特活：一日を気持ちよくスタートできるように活動することができる。

音楽：友達と一緒に声を合わせて歌ったり、体を動かしながら音楽を聴いたりする学習に楽しんで取り組む。

国語：読み聞かせを聞き、感じたことや分かったことを共有することができる。

児童の活動内容	教員の関わり
活動①「元気におへんじ」(特活)	
<ul style="list-style-type: none"> ○朝の挨拶や返事をする。 ○見付けたこと、気付いたことなどを話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や返事をするときの姿勢や声の大きさを伝える。 ・児童が話しやすくなるような話題を見付けておく。(校庭の植物や、朝休みの遊びの様子など。)
活動②「歌っておどって」(音楽)	
<ul style="list-style-type: none"> ○「大きな栗の木の下で」を体で表現しながら歌う。 ○ゲーム「貨物列車(じゃんけん列車)」で遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の速さを変えるなど静と動を意識させ、楽しみながら体を動かすことができるようにする。 ・ゲームのルールを丁寧に説明し、理解させる。
活動③「おはなし読んで」(国語)	
<ul style="list-style-type: none"> ○絵本の読み聞かせを聞く。 ○絵本の内容についてのクイズに答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10分程度で読み終わられる絵本を選んでおく。(名作と呼ばれている本、昔話、言葉遊びの本、数を数える本、季節の行事に関わる本、次の学習活動につながる本など。) ・絵本の内容についてのクイズを準備しておく。(主人公の名前は何か、どんな出来事があったかなど。)

**目標**

生活：自分の持ち物を整理することのよさに気付くことができる。

算数：ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べることができる。

特活：学級にあるものの使い方等について理解することができる。

児童の活動内容	教員の関わり
活動①「自分の持ち物を整理しよう」 （生活）	
<p>○自分の荷物を整理しながら、分からないことや不思議に思うことを出し合い、解決する。</p>	<p>・児童の生活経験などを想起させ、整理することのよさや、整理する時に大切なことを考えさせる。</p>
活動②「教室にあるものを仲間分けしてみよう」 （算数）	
<p>○教室にあるものを見付け、観点や条件に応じて仲間をつくる。 （黒板、黒板消し、机、椅子、絵…）</p>	<p>・形や性質の特徴について着目できるように、児童の意見を引き出して、話し合わせる。</p>
<p>○教室の中にあるものについて、1対1対応しながら数量の多少を比べる。</p>	<p>・一人一人の考えを認めながら、数量関係について指導する。</p>
活動③「みんなが気持ちよく使えるようにしよう」 （特活）	
<p>○自分の荷物の整理の仕方や教室の中にある机、椅子やロッカーなどの使い方について話し合う。</p>	<p>・児童の意見を拾い上げながら、自分の荷物やみんなで使うものは、丁寧に扱ったり、整頓して保管したりすることが大切であると気付かせる。</p>
<p>○教室をみんなが気持ちよく使うにはどうしたらよいかを話し合う。</p>	

活動例 3

「がっこうだいすき」(60分)

(生活 2 / 3 時間 算数 1 / 3 時間 特活 1 / 3 時間)

目標

生活：学校の中にあるものに関心をもって関わり、思いや願いをもって施設を利用しようとする。

算数：ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べることができる。

特活：学校の各施設の基本的な使い方を理解し、行動することができる。

児童の活動内容	教員の関わり
活動①「みつけたもの、なあに」(生活)	
○学校探検を通して見つけたものや不思議に思ったことなどを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の近くにある設備等で見つけたものを発表させる。 ・これから毎日使うものであることを確認する。
活動②「学校の中のものを仲間分けしてみよう」(算数)	
○学校の中にあるものを観点や条件に応じて仲間分けをする。 (手洗い場、トイレ、スリッパ…)	<ul style="list-style-type: none"> ・写真等を準備しておき、イメージしやすいようにする。
○学校の中にあるものについて、1対1対応しながら数量の多少を比べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の考えを認めながら、数量関係について指導する。
活動③「みんなが気持ちよく使えるようにしよう」(特活)	
○蛇口やトイレの使い方について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の意見を拾い上げながら、みんなで使うものは、丁寧に扱ったり、次に使う人の気持ちを考えたりすることが大切であると気付かせる。
○手洗い場やトイレをみんなで気持ちよく使うにはどうしたらよいかを話し合う。	

活動例 4

「なかよくあそぼう」

(音楽 1 / 3時間 算数 1 / 3時間 国語 1 / 3時間)

目標

音楽：友達と一緒に声を合わせて歌ったり、体を動かしながら音楽を聴いたりする学習に楽しんで取り組む。

算数：「いち」と「に」の数詞を知り、確実に数えることができる。

国語：読み聞かせを聞き、感じたことや分かったことを共有することができる。

児童の活動内容	教員の関わり
活動①「曲に合わせて」(音楽)	
<ul style="list-style-type: none"> ○「すうじのうた」を歌う。 ○ゲーム「貨物列車(じゃんけん列車)」で遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら体を動かすことができるようにする。 ・ゲームのルールを丁寧に説明するとともに、みんなで声を揃えて歌いながら体を動かすことができるようにする。
活動②「1から5までの数②」(算数)	
<ul style="list-style-type: none"> ○貨物列車で何人つながったか数える。 ○グループの人数を比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの人数をみんなで声を揃えながら数え、数を確認させる。 ・1対1対応の方法で人数を比べさせる。
活動③「おはなしよんで」(国語)	
<ul style="list-style-type: none"> ○絵本「100かいだてのいえ」の読み聞かせを聞く。 ○絵本の内容について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動①や活動②と関連させ、児童と一緒に数を数えながら数に対する意欲を高められるような絵本を選ぶ。 ・教室に絵本コーナーなどを設置し、児童が自ら読書しようとする環境を整えておく。また、関連する絵本についての紹介も行う。

目標

生活：給食が作られる様子を知ることを通して、学校生活に関わっている人や施設があることに気付くとともに、その人々に親しみ、よりよい学校生活を送ろうとする。

児童の活動内容	教員の関わり
<p>活動①「給食が始まるよ」(生活)</p>	
<p>○学校栄養士から給食についての話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようにして給食が作られるのか考えさせ、給食や給食を作る人々への関心をもたせるようにする。
<p>活動②「給食室へ行こう」(生活)</p>	
<p>○給食室へ探検に行き、給食室の様子を見学する。 <児童の反応例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いいにおいがするね。 ・大きな鍋の中に野菜がたくさん入っているよ。 ・何人で給食を作っているのかな。 <p>○教室に戻る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・給食室にあるものや調理員の様子に着目させる。 ・教員がタブレットを持って行き、給食室の様子を撮影しておく。 *給食センター方式の場合は、学校栄養士の協力のもと、事前に給食センターの様子を撮影させてもらう。 ・次の活動につなげるために、校内を見て回りながら教室に戻るようにする。
<p>活動③「振り返ろう」(生活)</p>	
<p>○給食室の様子を振り返り、見付けたこと、感じたことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影した画像を大型モニターで映すことで、児童が振り返りやすいようにする。 ・学校生活を支えている人々の存在に気付かせることで、学級や学校の生活を自分たちで一層楽しくしようとする態度を育てる。

活動例 6



「がっこうだいすき」

(図工 2 / 3 時間 国語 2 / 3 時間 生活 2 / 3 時間)

目標

図工：給食室の様子を思い出しながら、絵で表現することができる。

国語：紹介したい内容について、声の大きさに気を付けて伝えることができる。

生活：学校生活が人や施設によって支えられていることについて考えることができる。

児童の活動内容	教員の関わり
活動①「こんなこと発見」(図工)	
<p>○給食室で見つけたものを思い出しながら絵で表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思い出しやすいように、教員が撮影した画像を大型モニターで映す。
活動②「みんなに伝えよう」(国語)	
<p>○描いた絵をみんなに紹介する。</p> <p>紹介するときの話型例 「わたしは、○○を描きました。」 「これは、△△のときに使います。」 「わたしは、□□と思いました。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何について描いた絵なのかが分かるように話すように伝える。 ・ 声のものさしを提示し、声の大きさに気を付けて話すように伝える。 ・ 発表する際の話型についての指導をする。
活動③「学校生活について考えよう」(生活)	
<p>○みんなの絵を見て、気付いたことを発表する。</p> <p>○給食室にあるものや働いている人について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介した絵を黒板に貼り、絵を見ながら気付いたことを発表させる。 ・ 学校生活が人や施設によって支えられていることに気付かせる。

活動例 7

「そとあそび・がっこうだいすき」

(体育 2 / 3 時間 算数 1 / 3 時間 生活 2 / 3 時間 特活 1 / 3 時間)

目標

体育：運動遊びに進んで取り組み、決まりを守って場の安全に気を付けることができる。

算数：数詞を順に対応させて唱え、最後の数でもものの個数を表すことができる。

生活：学校の中にあるものに関心をもって関わり、思いや願いをもって施設を利用しようとする。

特活：遊具の使い方等について理解することができる。

児童の活動内容	教員の関わり
活動①「運動場の遊具で遊ぼう」 (体育)	
○運動場の遊具を使って、体を動かす。	・決まりを守り、安全に気を付けて運動遊びさせる。
活動②「運動場にあるものを数えてみよう」 (算数)	
○運動場にあるものを観点や条件に応じて仲間分けをする。 (鉄棒、ブランコ、砂場、一輪車…)	・同じ種類の物が複数個ある場合でも、仲間分けでは一つとして数えることを伝える。
○運動場にあるものについて、「いち」…「ご」の数詞を知り、数える。	・数えることが苦手な児童には、教員が共に指さしながら数える。
活動③「遊んだことや見付けたものをみんなに話そう」 (生活)	
○運動場で遊んだことや見付けたものについて話し合う。	・仲良く遊ぶことのよさ、遊具の役割について話し合わせる。
活動④「遊具の使い方について話し合おう」 (特活)	
○運動場の遊具の正しい使い方について話し合う。	・正しい利用方法が安全に使うことにつながる点に気付かせる。



目標

国語：自分の名前を書くことができる。

図工：自分の好きなものを思い浮かべながら絵で表現することができる。

生活：名刺交換を通して、友達と関わることよさに気付くことができる。

算数：数詞を順に対応させて唱え、最後の数でものの個数を表すことができる。

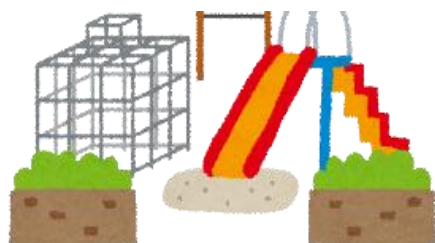
児童の活動内容	教員の関わり
活動①「自分の名前を書こう」 (国語)	
○名刺に自分の名前を書く。	・鉛筆の正しい持ち方を指導する。
活動②「自分の名刺」 (図工)	
○自分の好きなものや好きなことを思い浮かべ、自由に描く活動に関心をもつ。 ○自分の好きなものの形を考えたり、色を選んだりして描く。	・自分を紹介するために何を描けばよいか考えさせる。 ・クレヨン、パス、色鉛筆などの使い方についても指導する。
活動③「名刺交換をしよう」 (生活)	
○名前を伝える話型を確かめ、名前の他に伝え合うことを決める。 ○名刺交換をしながら、いろいろな友達と自己紹介をし合って握手をする。	・好きな食べ物や遊びなどを考えさせる。 ・教室の中を自由に移動させて、名刺交換できるようにする。
活動④「名刺の数を数えてみよう」 (算数)	
○「いち」…「ご」の数詞を知り、確実に数える。 ○1から5までの数について、名刺と数字を互いに対応させる。	・数字カードを提示し、数を数えるようにする。 ・交換して自分が持っている名刺の数を数えさせる。

目標

特活：グループで楽しく遊ぶことができる。

生活：グループで探検に行きたい場所を話し合っ決めて決めることができる。

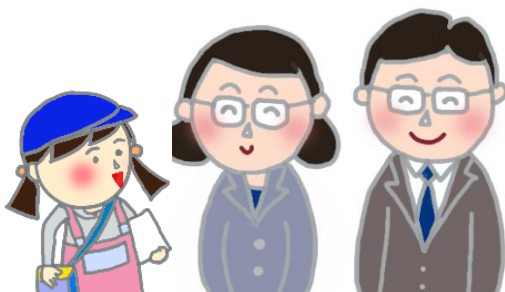
児童の活動内容	教員の関わり
活動①「グループで遊ぼう」(特活)	
<p>○4人程度のグループを作る。</p> <p>○作ったグループでグループ遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じゃんけんゲーム ・しりとりゲーム ・質問ゲーム etc 	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの席同士で生活班を作るよう声かけをする。 ・簡単なグループ遊びをすることで、生活班の児童のつながりを深め、グループによる学校探検が楽しく活動できるようにする。
活動②「もっと行きたい」(生活)	
<p>○校内にある気になった場所を出し合う。 (職員室、校長室、音楽室、理科室、他学年の教室…)</p> <p>○グループで行きたい場所を話し合っ選ぶ。</p> <p>○探検に行く順番を話し合っ決め、探検カードに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内を見て回ったときのことを思い出させ、探検への意欲を高めるようにする。 ・教員からもおすすめの方法を提案する。 ・探検は2回行うことを伝え、数カ所を選ぶようにする。 ・うまく順番を決められないグループには教員が助言する。 (2年生に補助をお願いすることも考えられる。)



目標

生活：グループで計画したことを基に、学校探検に取り組むことができる。

児童の活動内容	教員の関わり
活動①「学校探検のルールを確認しよう」 （生活）	
<p>○グループで学校探検をするときのルールを考える。 （廊下は右側を歩く、大きな声を出さない…）</p> <p>○全員でルールを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで楽しく安全に探検をするために必要なことを考えさせる。 ・黒板に書いたルールを声を揃えて読み、確認させる。
活動②「グループで探検①」 （生活）	
<p>○探検カードを見て、探検に行く場所を確認する。</p> <p>○グループごとに学校探検を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部屋に入るときは、きちんと挨拶をしよう。 ・お話を聞かせてもらったら、お礼を言おう。 ・困ったときは、近くの先生に声をかけよう。 <p>○探検を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・探検の視点をもたせるようにする。 （探検した場所にあったもの、友達に教えたいこと、出会った人など） ・円滑に探検が進むよう、事前に他の教職員に協力を依頼しておく。 ・探検の様子を教員が画像や動画で記録しておき、発表活動に活用できるようにする。 ・上手にできたこと、できなかったことを振り返らせ、次の探検につなげるようにする。





目標

国語：紹介したい内容について、声の大きさや話す速さなどを工夫して伝えることができる。

生活：学校での生活は様々な施設が関わっていることに気付くことができる。

児童の活動内容	教員の関わり
活動①「みんなに伝えよう」(国語)	
<p>○聞いている人がわかりやすいように、どのような話し方の工夫ができるか考える。</p> <p>○自分が調べた学校の場所について発表する。 また、友達が伝えたいことは何か考えながら発表を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大事なところは大きな声でゆっくり話すなど、話すときに工夫できることに気付かせる。 ・ 友達が伝えたいことは何かを考えながら聞かせる。 ・ 発表する場所が学校のどの場所にあるかについて説明する。 ・ 事前に I C T 端末で児童が発表する場所を撮影しておき、教室のモニターに映す。
活動②「分かったことや思ったことを伝え合おう」(生活)	
<p>○話し合いの進め方について、教員のモデルを見て確認する。</p> <p>○友達の発表を聞いて分かったことや思ったことを伝え合う。</p> <p>○互いの発表で良かったと思うことについて伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのように話し合いを進めるかについて、教員がモデルを示す。 ・ 友達の話を関心をもって聞いていたことが分かるように、内容について質問したり、共感を示したりするよう声かけをする。 ・ 発表の良かったところを中心に話し合いをすることで、学習に対する意欲や自信をもたせる。

**目標**

生活：春の写真を撮る中で自然のすばらしさに気付き、自然を大切にしようとする。

特活：学校のタブレットの使い方について、みんなが気持ちよく使うために気を付けることを話し合い、実践しようとしている。

児童の活動内容	教員の関わり
活動①「タブレット端末でカメラを使ってみよう」 （生活）	
<ul style="list-style-type: none"> ○家庭で考えてきた端末のパスワードをタブレットに入力する練習をする。 ○カメラの起動の仕方や、撮影した写真の確認方法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードの入力等は一文字ずつ拡大掲示等で示して視覚的な支援を行う。 ・タブレットの取扱の注意点について、丁寧に説明し理解させる。
活動②「春を探して写真にとろう」 （生活）	
<ul style="list-style-type: none"> ○校内で春を感じられるものを探して、見つけたものを写真に撮る。 ○学習支援ツールを使って、撮影した写真をクラウド上に提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真に撮るだけでなく、なぜ春を感じると思ったのか等、そのよさも考えておくように伝える。 ・大型掲示装置などを使って、児童が操作方法を理解しやすいようにする。
活動③「タブレットの使い方について考えよう」 （特活）	
<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットや机、椅子などの公共物の使い方について気を付けることを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合った内容が後の児童の生活に生かせるように、具体的な行動とそれを振り返る方法についても話し合わせる。



目標

算数：ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べることができる。

生活：春の校庭で遊ぶことの楽しさに気付くとともに、春の自然の特徴を生かして楽しく遊ぼうとする。

児童の活動内容	教員の関わり
活動①「見つけた春を仲間分けしてみよう」 (算数)	
<p>○校庭で見つけた春の自然を仲間分けする。</p> <p>(ダンゴムシ、タンポポ、レンゲソウ…)</p> <p>○写真ごとに対象物の数を数えて、数量の多少を比べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に撮った写真を見せながら、校庭で見つけた春の自然を思い出させる。 ・教員が撮った写真も活用する。 ・写真に○を付けながら数を数えさせる。
活動②「春と遊ぼう」 (生活)	
<p>○校庭に出て、見つけた春の自然を使って遊ぶ。</p> <p>(草花遊び、虫取り…)</p> <p>○片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、認定こども園、保育所等で遊んだ経験を想起させながら、活動を進める。 ・使った物を片付けたり、作ったものを自分で管理したりすることが大切であることに気付かせる。





目標

生活：植物に心を寄せ、大切に育てていこうとすることができるようにする。

算数：1～10の数について、大小を比較することができる。

道徳：生命の大切さについて考える。

児童の活動内容	教員の関わり
<p>活動①「そだてよう」（生活）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○種あてクイズをする。 ○幼稚園、認定こども園、保育所等で植物を育てた経験を伝え合う。 ○植物を育てるときに気を付けたいことについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類の種を準備し、どのような花が咲くのかをクイズにして示し、植物を育てることへの興味を高める。 ・これまでの経験を思い出させ、それをもとに話し合わせる。
<p>活動②「10までのかず」（算数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループを作り、アサガオの種を使って、数を数える。 ○自分と友達の種の数比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの人数分の数の10までの種がランダムに入った袋を渡し、種の数を読みさせる。 ・グループでそれぞれの種の数比べるようにする。
<p>活動③「たねをまこう」（生活）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○記録カードに活動の様子を記録する。 ○鉢に土を入れ、アサガオの種をまく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・種をまく前の様子とそのときの気持ちや思いを絵や文字で記録させる。 ・種のまき方の手本を示す。
<p>活動④「たいせつないのち」（道徳）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アサガオの種をまいたときに感じたことを伝え合う。 ○生命の大切さについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱心に世話をしている児童の様子を写真で見せ、どのような思いで世話をしているのかを考えさせる。 ・植物にも命があることに気付き、生命の大切さについて考えさせる。



卷末資料

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

(1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にす気持ちをもって関わるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

子どもの学びと育ちをつなぐ

「スタートカリキュラム」では、幼児期からの子どもの学びと育ちを豊かにつなぐことが期待されています。そのためには、幼児期の遊びの中に様々な学びがあることを把握し、資質・能力を見取ることが大切です。

のびのび遊ぼう



子どもの
つばやき例

資質・能力の見取り例（10の姿）

（1）健康な心と体
充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を働かせている。

いろんな葉っぱの
色と形がきれいだな！

（7）自然との関わり・生命尊重
自然の変化などを感じ取っている。

葉っぱがふかふか
気持ちいいね！

葉っぱのお布団

（10）豊かな感性と表現
友達同士で表現する過程を楽しんでいる。



（7）自然との関わり・生命尊重
身近な事象への関心が高まっている。

葉っぱがカサカサ
楽しいね！

（9）言葉による伝え合い
言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(2) 自立心
自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わっている。

もっと勢いよく流したいな！



水を海に届けよう

(6) 思考力の芽生え
感じ取ったり、気付いたり、考えたり、予想したり、工夫したりして、多様な関わりを楽しむようになる。



スタートを高くしてみよう！

(3) 協同性
共通の目的に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりしている。

それ、いいね！
どうやったの？

(6) 思考力の芽生え
自分と異なる考えがあることに気付いている。

色水づくり



築山でドングリころがし



ころがし方、
かわいいね！

(7) 自然との関わり・生命尊重
好奇心や探究心をもって考え言葉な
どで表現している。

ドングリころころだ！

どうして真っ直ぐ
転がらないの？

(6) 思考力の芽生え
新しい考えを生み出す喜びを
味わっている。

(3) 協同性
互いの思いや考えなどを
共有している。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心
数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を
重ねている。

カマキリの動きを観察中



カマキリのうでが・・・

いっしょに見よう！

(4) 道徳性・規範意識の芽生え
相手の立場に立って行動するようになる。

ザリガニを飼おう

(9) 言葉による伝え合い
相手の話を注意して聞いている。



分からないことは、
図鑑で調べてみるよ！

ハロウィンパーティーたのしいね

いっしょにしよう！

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねている。

(3) 協同性
友達と関わる中で、工夫したり、協力したりしている。



何個いる？
何て書いてるの？

作るの楽しいな♪

(10) 豊かな感性と表現
表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

こわくない？

(2) 自立心
自信をもって行動している。

(5) 社会生活との関わり
人との関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じている。

しっかりつかまって！

(9) 言葉による伝え合い
言葉による伝え合いを楽しむようになる。



手作りティーカップに乗って

話し合いタイム

大切なことはしっかり
目と耳で聞くよ！

(9) 言葉による伝え合い
経験したことや考えたことなど
を言葉で伝えている。



給食の準備も少しずつ
自分たちでできること
をしているよ！



(2) 自立心
自分の力で行うために考えたり、
工夫したりしている。

(5) 社会生活との関わり
自分が役に立つ喜びを感じている。

当番活動

(2) 自立心
しなければならないことを自覚
している。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え
友達と折り合いをつけながら、
きまりをつくったり、守ったりす
るようになる。

ほうきを使って



掃除のしかたも
練習しているよ！

「奈良っ子はぐくみ基本方針」

令和4年3月に策定された「奈良っ子はぐくみ基本方針」には、「学ぶ力」「生きる力」を培う3つの土台（自己肯定感・自尊感情、他者への寛容なこころ、健やかな身体）を育むことが就学前教育の目標として示されています。3つの土台は、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が目指している内容を奈良県が整理したものであり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と等しいものです。

「学ぶ力」「生きる力」を培う3つの土台づくりの方向性とはぐくみのポイント

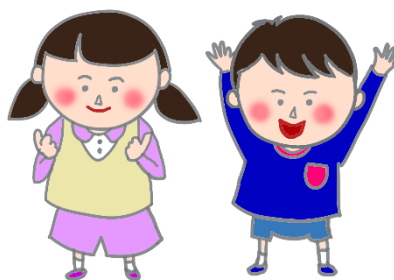
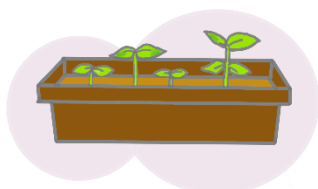
(1) 自己肯定感・自尊感情

方向性・子どもの姿

- ①自分の存在が受け容れられているという安心感の中で、安定した生活を送る。
- ②身近な環境に興味や関心を持ち、それらを遊びや生活に取り入れようとする意欲をもっている。
- ③失敗や悔しさを経験し、試したり工夫したりしながら、あきらめずやり遂げることで充実感・達成感を味わい、自信を持って行動する。

「自己肯定感・自尊感情」をはぐくむためのポイント

- ・子どもの存在を愛情豊かに受け容れ、信頼感をはぐくむ。
- ・子どもの考えや行動を肯定的に受け止める。
- ・子どもを多面的に理解する。
- ・小さな成功体験を積み上げていくことができるよう、サポートする。
- ・一人ひとりの子どもが、集団の中で自己を発揮し、認められ、受け容れられている感覚を持てるようにする。
- ・やってみたい気持ち、やり遂げたい気持ちを大切にする。
- ・子どもが関心を持ったことに思う存分取り組める環境を整える。
- ・教え込みではなく、子どもの活動を見守りながら、新しい発想が生まれるサポートをする。



(2) 他者への寛容なところ

方向性・子どもの姿

- ①自分の気持ちを大切にしながら、周囲の人や友達と折り合いをつける。
- ②自分の思いや考えを言葉で伝えたり、相手の思いを受け止めたりして考えて行動する。
- ③物や施設を共有することに慣れ、大切に扱う。
- ④地域において豊かな楽しい経験を重ね、地域に親しみを持っている。

「他者への寛容なところ」をはぐくむためのポイント

- ・友達との交流を深め、意見を出し合い、時には対立することもあるが、互いのよさや、考え方の違い、多様性に気づくことができるよう働きかける。
- ・異なる年齢の子どもなどに関わる機会を積極的に設け、学び合いを見守る。
- ・保護者や保育者自らが、他者への思いやりを持って行動するモデルになれるよう努力する。
- ・子どもに固定的な性別役割分担意識を植え付けることにならないよう、保育者自身が無意識に「〇〇の作業は男性が向いている」、または「女性が向いている」などと決めつけていないか気づく機会を持ち、固定的な観念にとらわれずに行動する。
- ・物や遊具を友達と一緒に使っていく中で、皆が使いやすいような使い方に気づくことができるよう働きかける。
- ・公共の施設などを大切に利用する姿を通して、社会や周囲とのつながりを意識するモデルとなる。
- ・友達との関わりのなかで、楽しさや充実感を通して、守らなければならないことがあると気づくように援助する。
- ・地域の身近な人や文化と触れ合い、地域に親しみを持てるような環境をつくる。



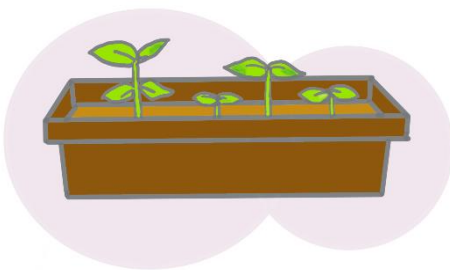
(3) 健やかな身体

方向性・子どもの姿

- ①のびのびと体を動かす心地よさを味わい、夢中になって遊ぶ。
- ②家族、友達や保育者と一緒に食べることを楽しむ。
- ③基本的な生活習慣を身に付け、生活に必要な活動を自分で行う。
- ④五感を通して自然と触れ合い、その不思議さや楽しさを感じる。
- ⑤感じたことや考えたことを、自分で表現することを楽しむ。

「健やかな身体」をはぐくむためのポイント

- ・子どもが進んで体を動かそうとする意欲を育てる。
- ・それぞれの子どもが、発達段階や特性に応じた体の動かし方を楽しめるように配慮する。
- ・活動と休息のバランスに配慮する。
- ・健康で安全な生活につながる行動を認め、子どもが満たされた気持ちを持ちながら、その行動を習慣化していくことを促す。
- ・食べることの喜び、家族や友達等と一緒に食べることの楽しさを感じることができるよう工夫する。
- ・日々の生活の中で、多様性のある自然に触れ合い、親しみ、遊び込める環境を整える。
- ・子どもの独特の感性を肯定し、それぞれが感じたことを表現できるように助ける。



「奈良っ子はぐくみ基本方針」P10～P12
<https://www.pref.nara.jp/item/264497.htm>



奈良県の就学前教育施設では、幼児期の教育として、本方針で示された「学ぶ力」「生きる力」を培う3つの土台づくりの方向性とはぐくみのポイントを大切にしながら、資質・能力を育むよう取組を進めています。

奈良県の小学校において就学前の施設類型に関わらず、幼児期の教育と児童期の教育を円滑に接続させるためには、このような幼児期の教育方針を把握することが大切です。

